

公共の場での香料使用自粛の周知を 深刻な化学物質過敏症を理解して。

患者の会知事に要望

昨今の香りブームの中、化学物質を原料とする香り付き合成洗剤や柔軟剤、消臭剤、整髪料などが原因となって、頭痛や吐き気などの体調不良や、化学物質過敏症の発症につながる問題が増えています。店舗や公共施設、職場や学校、隣家など、日常生活空間で曝露するため、休業・休学を余儀なくされ、外出



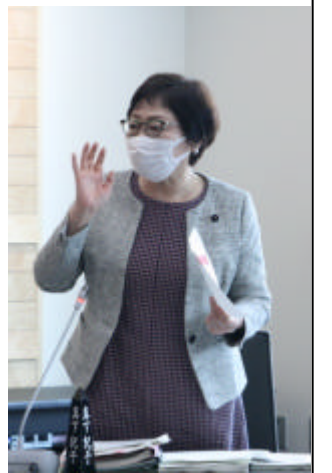
できなくなるなど深刻な問題と なっています。

香りが持続するためにマイク ロカプセルを使う商品が増え、マイクロプラスティックによる環境問題も浮上しています。

旭川市で活動する化学物質過敏症の患者及び家族の自助グループ「旭川CS仲間の会」は2月16日、「香害」の啓発・周知を求める要望書を鈴木直道知事に提出。「香料自粛の呼びかけ」を北海道のホームページに掲載することや、リーフレット・ポスターなどでの啓発周知を求めました。上川総合振興局で対応した田辺きよみ副局長は「まず知ることから始めたい」と応じました。

「香害」について質問

要望に同行した真下紀子議員は、24日の環境生活委員会



「香害」について質問。道は、柔軟剤や香水等、人工香料を用いた製品の匂いについて、「人によつては深刻な体調不良を引き起こす事例もある」と答えました。

道立消費者センターには毎年6〜7件の相談があり、札幌市、旭川市、釧路市、石狩市と音更町がHPで啓発し、札幌市、旭川市はリーフレットやポスター等を作成していると紹介した道は、「今後、関係部などと連携しながら、より多くの消費者の目にとまるよう、SNSなども活用し、効果的な情報発信を検討する」と答えました。

留萌線の減便通学に影響

JR代替バスの運行を検討

「JR北海道が代替バスの運行を検討している」、3日の道議会地方路線問題調査特別委員会に報告されました。

1月14日の同委員会で「春のダイヤ改正で留萌線深川19時22分発の減便が予定され、通学

などに及ぼす影響が大きい」と真下紀子議員が質問したことを受け、委員会としてJRとの協議と報告を求めています。

道は高校生へのアンケート調査も実施しました。

質問冒頭、喜多龍一委員長と委員各位の特段の措置に感謝をのべた真下議員は、26日に深川西高と駅利用者から聞き取った内容で発言しました。

「代行バス運行は通学定期に限定せず、通勤者や定期以外での通学期間の利

用にも対処が必要です。部活は体育館をローテーション使用しているため下校時の生徒が分散される実態があります。2020年はコロナ禍で登校日が少なく、学校祭の中止や部活回数の減少など特別の事情がありました」と発言し、利用者目線での対応を求めました。

また、卒業生は滝川、砂川、深川の看護師養成校への進学が多く地域医療を担う重要な役割を果たし、地元就職も多く、地域を支える人材を多数輩出していると紹介。将来を見据え生徒を支える重要性を強調した発言後、委員から拍手がわきました。



深川西高の山本英人校長らと意見交換

アイヌ政策に真下議員の提案反映

21年度からの5年間のアイヌ政策の基本方針となるアイヌ政策推進方策が、2日の環境生活委員会に報告されました。



アイヌの歴史や文化の理解促進、アイヌの生活の向上、アイヌ文化の振興、地域・産業・観光の推進、多様な文化との交流推進を柱にしています。
11月4日の同委員会では、真下議員は、アイヌ政策推進方策の策定に向け、和人による侵略と同化政策という正確な歴史を反映させ、

医療従事者は地域の宝

勤医協中央病院と懇談

真下議員は2月9日、第1回定例道議会を前に院内集団感染を終息させた勤医協中央病院の鈴木隆司院長らの皆さんと懇談し、取りくみを聴きました。同病院では、陽性者を把握後、広い範囲で職員を休ませ検査を実施、陽性者の出た病棟には他の部署からの職員で新たな看護チームを結成、看護師長も配置して支援したという徹底ぶりです。

メンタルサポートのためには、医師と公認心理師でサポートしているというところで、今後も続くコロナ対策について、重要な視点を教えていただきました。



道民の命と暮らしを守る予算へ

第1回定例道議会開会

2月25日、第1回定例道議会が開会しました。開会日の朝、日本共産党道議団は道庁北門前で、定例会に臨む決意を訴えました。

定例会には3兆2千億円の一般会計予算案などが提案され、コロナ禍で道民の命と暮らしを守る予算にしていけるために論戦を展開していきます。



「原発ゼロ・核ごみのない北海道の未来」

パンフレット「原発ゼロ・核ごみのない北海道の未来」を発行しました。

高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向けた文献調査に、寿都町と神恵内村が応募を決めました。道民は「核のごみを持ち込ませない」ことを求めています。



真下議員は、1,743億円にのぼる泊原発マネが地域の活性化に繋がっていないと問題提起。「一緒に考えてみませんか、これからの北海道を」パンフレットご希望の方は真下紀子事務所まで。

ヒグマとの共生 方策検討を

真下議員は2月2日の環境生活委員会で、「ヒグマとの共生をどうはかるか」、質問しました。ヒグマの出没数が増え、2019年度の駆除数は828頭を数えています。

真下議員は、ヒグマが人間の生活圏に入り込む問題への対処が重要と指摘。野生動物の「アニマルウェルフェア（動物福祉）」の考え方から母子熊や冬眠中の熊を狩猟すべきではないと主張。駆除ありきではなく、ヒグマの生息数を科学的に把握し、共生できる方策を検討するよう求めました。



慰霊につながる遺骨の問題、旧土人法に対する批判的見地、就学年齢や履修科目などの教育格差について修正を提案、道は意見を反映すると答えていました。今回の提案では、「同化政策」について言及し、「アイヌの遺骨が人類学等の分野で研究対象とされ、発掘・収集が行われ、それらの中にはアイヌの人たちの意にかかわらず収集されたものも含まれている」と

明記されました。旧土人法、先住民族の権利に関する国際連合宣言なども追記されました。真下議員は、「アイヌ民族の背景や歴史がより正確に修正されたのは、当事者の声の高まりとそれに基づいての提案とともに、ヘイトスピーチに厳正に対処すると答弁した道の姿勢の反映」とのべています。

ホームページで質問動画を配信中！

真下紀子議員のホームページから、議会質問の動画を見ることができます。トップのメニューから「動画」を選択すると、これまでの議会質問の一覧が表示されます。ホームページは「真下紀子」で検索ください。